瑞穂中学校だより

【学校教育目標：ふるさとを愛し
心身ともにたくましく　主体的に学ぶ生徒の育成】

令和4年7月7日（木）NO．12　文責：校長　柏原　哲郎
HP アドレス　https://www.unzen.ed.jp/mizuhochu

長崎っ子の心を見つめる教育週間始まる（その一）

7／1（金）から、本校の「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が始まりました。この教育週間中には、以前ご案内していた①「雲仙市ふるさと平和学習（2年生対象）」、②「校長講話（全学年対象）」、③「救命救急講習（2年生対象）」、④「薬物乱用防止教室（3年生対象：臨時休校の為延期）」、そして今日は、⑤「道徳の授業参観（全学年対象）」が計画されています。今号ではまず①②の取組の様子をお伝えします。

①「雲仙市ふるさと平和学習（2年生対象）」（7／1実施）

雲仙市ふるさと平和学習は、「学ぼう戦争の記憶　つなごう郷土の平和」をテーマとして実施しました。学習のめあては、「雲仙市で起こった戦争の実態を把握し、平和について考えを深め合おう」となっています。

最初に、「第2次世界大戦と日本について」、それから順に「愛野空襲」・「南串山・京泊震洋特攻基地」・「当時の生活」の説明を聞いたり、映像を見たり、新聞記事を読んだりしました。

その後、特に印象に残った新聞記事を1つ選んで、同じ新聞記事を選んだメンバーでグループワークを行い、お互いの感想を持ち寄り、内容を深め、全体に発表しました。

最後は、今回の学習での学び（感想）をタブレット端末に入力しました。雲仙市内で起こった戦争についての学習だったので、より身近に感じてくれたものと思います。

後で聞いた話ですが、2年生が入力した感想がとてもしっかりしていて良かったと、指導された長崎新聞社の方からお褒めの言葉をいただきました。そこで、二人だけですが、生徒の入力コメント（感想）を紹介します。

○　平和学習をして、愛野空襲や兵隊さん、米英色看板について知りました。地元でも空襲が起こっていたことを初めて知り、驚きました。近所にも防空壕があり、冷たい空気が漂っていて何となく近づきにくかったけど、学習をして命を守るために大切なものだったのだと分かりました。今平和なこと、ご飯が毎日食べられていることに感謝し、もう二度と戦争を起こさないためにいじめなどをせず、仲良く過ごしていきたいです。

○　長崎に原爆が落ち、大勢の人が犠牲になったなどのことは知っていたが、自分たちが住んでいる地域のことについては全く知りませんでした。だから、この雲仙市ふるさと平和学習2022で、愛野空襲や南串山・震洋特攻基地などのことを知って、戦争は自分の近くでも起こっていたのだということを知り、戦争というものを身近に感じました。こういった平和学習を行って戦争について知るだけではなく、戦争について考え、一人ひとり平和心を育てることが大事だと思いました。

②「校長講話（全学年対象）」（7／4実施）

生徒には、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が始まる前日に次のような話をしていました。
『明日から長崎っ子の心を見つめる教育週間が始まります。この一週間だけでも、これまでの自分、今の自分、そしてこれからの自分のことを少しばかりでも考えながら過ごしてほしいなあと思っています。そのために、明日の2年生の雲仙市ふるさと平和学習をはじめ、いろんな取組が計画されています。その時々にでも、しっかり考えてみてください。』

このことを踏まえ、講話では「命の大切さを理解し、そのうえで『心を見つめる』とはどういうことかについて、自分なりの考えを出すことで、理解をさらに深めることにつなげる。」ということを目標に、道徳の授業（生命尊重）として話をしました。

まず、二つの悲しい事件を紹介しました。これらの事件をとおして、これまで以上に命の大切さを児童生徒の心の中に育んでいかなければならない、そういった機会の一つにするために教育週間が始まったこと。しかし、さらに悲しい事件が起きたこと。教師、保護者、大人たちは苦悩したこと。しかし、諦めずに命の大切さを考え続け、一人ひとりの心の中にそのことをしっかりと根付かせ育んでいかなければならないという思いで今があるということ。

次に4つの命について考えました。

①　命には限りがあるという有限性の命　②　命は掛け替えのないものであるという唯一無二の命
③　命は周りの人に悲しみと喜びを与えるという悲喜の命　④　命のリレー・バトンとしての連続性の命

特に④の連続性の命については、今の自分の命があるのはお父さん、お母さんの命があったから。
そこから10代前にさかのぼってどれだけの命があったのか、その家系図的なものを生徒に実際に並んでもらい作りました。

5代前の列には32人が並びました。次の6代前の列には64人が並ぶことになりますが、すでに残った生徒数を超えています。

10代前の列には何と1024人が並ぶことになります。今の自分の命を繋いでくれた命は10代前から合計すると2046人になります。これらのことから「私・あなたの命は、私・あなただけの命ではない」という思いを実感してもらいました。

そして、さだまさしさんの「いのちの理由」という曲を聴きました。聞き終わったその余韻の中で、「あなたにとって、『心を見つめる』とは、どういうことだと思いますか？」という問いを投げかけました。生徒たちはその問いに真剣に向き合い全校生徒が一斉に一人ひとりの答えを出してくれました。その様子を見て、とても嬉しく思いました。生徒の答えは次号でいくつか紹介したいと考えています。自分の答えをこれからの生活に繋げてくれることを願っているところです。

暑い毎日が続きます。暑さに負けず、熱中症、そして増加傾向のコロナ感染に気をつける日々が続きます。